

連載

大西巨人

広大な詩筆と鋭利な認識によって編まれた
アンソロジーの白眉。

特集

コーヒーの世界システムと対抗運動
コーヒーは古くて新しい「植民地作物」の代表例である。

南の生産者は年毎に貧しくなり、北の消費者は不味いコーヒーを飲まされている。
それでも、私たちはブランドコーヒーを飲み続けるのか。
あるいは、オルタナティブな回路を求めるのか。



特集1

コーヒーの価格形成と協同組合小農民
「ギリマンジャロ」の生産から輸出まで

辻村英之

コーヒーの価格形成メカニズムの明晰な分析と生産現場での
苦闘・工夫の紹介から、巨大資本ネットワークに風穴を開け、
コーヒー取引の可能性を基礎付ける、俊英の基調論文。

特集2

ベトナムコーヒーの光と陰

池本幸生

日本においては知名度こそ低いが、
その過剰供給から世界市場に衝撃を与えた
ベトナム・コーヒーの生産状況のレポート。

特集3

岐路に立つフェアトレードの現状と課題

堀田正彦

フェアトレードのラベル認証制度の根本的問題点を抽出し、
認証万能の風潮を厳しく批判する注目の論考。

特別対話

「暴力のアート」の方へ

酒井隆史×菅野稔人

非暴力空間は、国家の暴力独占による「効果」に過ぎない。

連載対話

開かれた運動の技術をめぐって
自分たちの経験から学ぶこと、いくつか

吉岡忍×吉田司

一世を風靡し今も売れ続けている「殺すな」バッジや
映画「圧殺の森」などを製作した対談者の経験を大公開。

連載

ケアの社会学
第二章 家族介護は「自然」か？

上野千鶴子

介護関係者を超えて大きな反響を呼ぶ注目の連載。
「家族介護」は伝統的な習俗なのか？
被介護者にとってよいものなのか？

コラム「協同」の現場から

- 1 ひかりのさとファーム
- 2 自立生活サポートセンター・もやい
- 3 女のおしゃべり会
- 4 東京都立大森高校定時制／OCNet

デザイン覚書3

鈴木一誌

『at』3号に書いた／語った人たち

編集後記・次号予告

157



写真・図版提供 協力
山本宗輔、辻村英之、市橋秀夫、市民の意見30の会、東京、
ひかりのさとファーム、嶋田ミカ、東京都立大森高校、ほか

ナマケモノの森で育つコーヒー
南米エクアドルのインタグから

藤岡亜美
40

南米エクアドルで原生林とコーヒーなどの農業との共生を目指す試みと国際的連携する市民のコーヒー交易事業報告。

東ティモールコーヒーの挑戦
そこにあるものを、そこにしかないものへ

浜田空
45

A.T.J.が独自に開発を進める東ティモールにおける、「筋縄ではいかない涙いっぱいの苦闘レポート」。それでも挑戦は続く。

ラオスコーヒー事始
小規模生産者と歩む

小林和夫
52

連携がはじまって間もないラオスとの交易状況を伝える、A.T.J.のアジアコーヒー・ネットワーク最前線現場報告。

日本のコーヒー産業の特質とフェアトレード

辻村英之
60

欧米市場に比べて歴史の浅い、日本のコーヒー市場の特殊性を見るには、超高級品ブルーマウンテンを考察すればいい。

コラム

コーヒーの流通経路

コーヒーの生産国と輸入国

日本におけるコーヒーの受容

A.T.J.のコーヒーが届くまで

綿貫涼子・星智美
21

46

43

33

21

革命と反復
第三章 封建的とアジア的と

柄谷行人
72

生産様式Ⅱ発展段階論という二〇世紀の革命論の迷妄を批判し、「交換様式」を提示して歴史・国家認識の根源的変更を迫る雄編。

英国オックスファムとは何か？(前篇)
世界最大規模の国際援助NGOの全体像

市橋秀夫
86

年間予算三五〇億円を超え、世界七〇カ国以上で「貧困と苦難の克服」のために奮闘する国際NGOの全貌に迫る力作報告。

